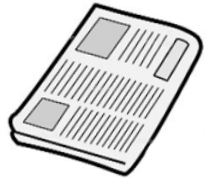


にゅーすきじ 新闻摘要・ニュース記事から

ねん がつ にち (2021年5月15日～2021年11月30日)



有关遗华日本人等、中国(库页岛)归国者的新闻

ちゅうごくざんりゅうほうじんとう ちゅうごく さはりん きこくしゃかんれん にゅーす 中国残留邦人等・中国(サハリン)帰国者関連のニュースから

2021年5月17日(星期一)

据报道说，一名曾是原暴走族团伙“怒罗权(中国龙)”第一代成员的男性一直坚持给在监狱中服刑的犯人送书，并长期参加帮助犯了罪的人回归社会的活动。这就是汪楠先生(49岁)。汪先生曾在17岁时成了指定暴力团的组员，因多次犯罪，于2002年被判处了13年的有期徒刑。在监狱里的服刑期间，他得到了一位主动帮助遗华日本人的律师的援助，通过这位律师，他开始向与自己有关系的人们寄信。据说，这成了他改过自新的动力。(有报道说汪楠先生在10月份被逮捕了，但是由于没有犯罪的事实，基于错误逮捕几天后就被释放了。)

6月5日(星期六)

由过去曾因无法从桦太(现库页岛)返回日本而留在当地的日本人组成的“库页岛日本人协会”时隔两年召开了总会。在大会上汇报了以下等的事项：因受新冠疫情的影响，2020年集体暂时回国等的活动全部取消，以及近两年有13名会员因高龄去世。随着会员们年龄的高龄化，今后如何继续开展活动成了一个课题。

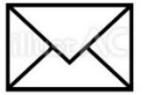
7月9日(星期五)

曾担任“库页岛日本人协会”会长长达12年的白畑正义先生(81岁)将于11日返回日本永住。白畑先生本来是打算把自己的遗骨埋葬在生于斯长于斯的库页岛，但是由于对自己的宿疾也多有不安，所以做出了去日本生活的选择。遗留在库页岛的日本人回国永住的事距上次已时隔四年了。事这四年来还是第一次。日本库页岛协会会长齐藤弘美女士表示了对白畑先生的祝愿“白畑先生为库页岛日本人协会做出了不懈的努力。希望他能放松身心，享受新的人生。”

7月19日(星期一)

日中共同合拍的电视剧《大地之子》于7月

2021年5月17日(月)：元暴走族グループ「怒羅権(チャイニーズドラゴン)」の初代メンバーだった男性が、刑務所で暮らす受刑者に本を送り、罪を犯した人たちの社会復帰を助ける活動を続けているという。汪楠さん(49)だ。汪さんはかつて17歳で指定暴力団の組員となって犯罪を繰り返し、2002年に懲役13年の判決を受けた。刑務所では中国残留邦人支援の弁護士に支えられ、弁護士を通じて、自身と関わりがあった人に手紙を送るようになり、それが、更生への原動力になったという。(※10月に逮捕されたとの報道があったが、犯罪の事実はなく、誤認逮捕で後日釈放された。)



6月5日(土)：かつての桦太(今のサハリン)から帰国できずに現地に残った日本人でつくる「サハリン日本人会」の総会が2年ぶりに開かれた。総会では、新型コロナウイルスの影響で2020年は日本への一時帰国事業などの活動をすべて中止したことや、高齢化が進み、この2年で13人の会員が亡くなったことが報告された。高齢化が進む中、どう活動を続けていくかが課題になっている。

7月9日(金)：「サハリン日本人会」の会長を12年間務めた白畑正義さん(81)が11日、日本に永住帰国する。生まれ育ったサハリンに骨をうずめるつもりだったが、持病に不安もあり、日本で生きる道を選択した。サハリン残留日本人の永住帰国は4年ぶり。日本サハリン協会の齊藤弘美会長は、「白畑さんはサハリン日本人会のために頑張ってくれた。新しい人生を楽しみ、ゆっくりしてほしい」と願っている。

19 日起在 NHK BS Premium (NHK 旗下的卫星频道) 开始重播了 (最后一集于 8 月 23 日播映)。这是一部根据山崎丰子原著的大河小说《大地之子》改编的电视剧, 首次播放是 1996 年。故事一方面叙述了在战败的混乱中, 被遗留在旧满洲的主人公由慈善的中国养父母领养, 之后成长为一名钢铁行业的技师的人生历程; 同时也描写了主人公与一直坚持寻找儿子的亲身父亲如何并肩努力, 一起完成了中日共同合作的制铁场建设。故事以战后 40 年间的中日现代史为背景, 描写了遗华孤儿的问题。

### 7 月 24 日 (星期六)

作为羽田机场保洁匠人而闻名的遗华孤儿 2 代新津春子。她在各处担任清扫顾问等, 不断地扩展工作的范围。但是, 由于疫情的影响, 有关指导清扫方面的工作也随之减少。不过这也带来了进一步的转机, 新津女士作为油管主播出道了。在“新津春子的简单实用的清扫频道”中上传了在家里也可以做到的很专业的清扫技巧的视频。

### 8 月 3 日 (星期二)

于 2013 年在长野县南部的山村—阿智村开馆的“满蒙开拓和平纪念馆”至今还传述着战前国家政策远渡旧满洲的 27 万名开拓团员的苦难历史。有位在 1945 年 8 月 9 日因遇到苏联军的进攻而在荒野中逃生, 失去家人的原开拓团的团员们, 现在作为几名“讲述人”以自己的经历做证言。

### 8 月 10 日 (星期二)

因为战后的混乱等的原因, 没能马上撤回日本本土, 被遗留在桦太 (现在的库页岛), 之后回国永住的遗留日本人。为了了解他们现在面临的生活上的问题, 北海道政府实施了一项调查。调查的结果, 有近百分之四十的人回答说他们“完全不会读”日语。办理医疗手续等有困难的回答也很多, 凸显出来语言的障碍了。

### 8 月 15 日 (星期日)

居住在京都府龟冈市的黑田先生 (84 岁), 9 岁时在旧满洲成了孤儿, 拼着性命返回了日

7 月 19 日 (月): 日中共同制作テレビドラマ「大地の子」が NHK BS プレミアムで 7/19 から再放送された (最終回は 8/23)。山崎豊子原作の大河小説「大地の子」のテレビドラマ化で、初回放送は 1996 年。敗戦の混乱の中で、旧満洲にとり残された主人公が、慈悲深い中国人養父母に拾われ、鉄鋼技師として成長するまでの半生を追いながら、子供を捜し続けた実父とともに、日中共同事業の製鉄所建設を成し遂げる物語だ。戦後 40 年間の日中現代史を背景として、残留孤児問題が描かれている。

7 月 24 日 (土): 中国残留孤児 2 世で、羽田空港のカリスマ清掃員として名を馳せた新津春子さん。あちこちで清掃アドバイザーを務めるなど、仕事の幅を広げてきた。しかしコロナ禍で清掃の仕事が減ったことが、さらなる転機をもたらし、ユーチューバーとしてデビューした。「新津春子のやさしいお掃除チャンネル」に、家庭でもできるプロの技の動画がアップされている。



8 月 3 日 (火): 長野県南部的の山村、阿智村に 2013 年にオープンした「満蒙开拓平和記念館」。戦前、国策の下に旧満洲に渡った开拓团员 27 万人の苦难の歴史を今に伝えている。1945 年 8 月 9 日のソ連軍侵攻で荒野を逃げまどい、家族を失った元团员が、今も「語り部」として自らの体験を証言している。

8 月 10 日 (火): 終戦後の混乱などで、すぐには日本本土に引き揚げられず、樺太 (今のサハリン) に残られ、後になって永住帰国した残留邦人。現在の生活の課題を把握するために、北海道庁が調査を実施した。その結果、4 割近くが日本語を「全く読めない」と回答。医療の手続きなどが困難との回答も多く、言葉の壁が浮き彫りになった。

8 月 15 日 (日): 京都府亀岡市在住の黒田さん (84) は、9 歳のとき旧満洲で孤児となり、命からがら日本に帰国した。父親は現地で召集されたのちシベリ

本。据说他的父亲在当地被征集入队，之后被扣留在西伯利亚。母亲在逃亡中因身体衰竭死亡，弟弟也成了遗留孤儿。他说“我们应国家的要求去了满洲。如果要对战争做出反省的话，就请哀悼牺牲者，为了不忘记那段历史应该需要有个象征性的东西。” 黑田先生请求政府树立慰灵碑。此外，他从十来年前一直坚持作为“讲述人”做证言活动。

**8 月 24 日 (星期二)**

据说，向在战争结束后的混乱中被遗留在旧满洲的众多遗留日本人孤儿们伸出了援助之手的中国养父母的人数达 5000 人以上。日本遗孤养父母联谊会的胡晓慧女士，得到当地政府的协助，把以前从养父母那里听到的经历和一些照片等发到互联网上、并在博物馆里公开展出，希望能把这些见证物保留下来。

**10 月 17 日 (星期日)**

从现在的广岛县安艺高田市应国家的政策远渡旧满洲的高田开拓团，在 1945 年 8 月 15 日的战争结束后，被逼迫集体自杀、遭遇与亲人离散等的残酷命运。并且在战后不久的旧满洲，发生了逃亡避难，成为遗华孤儿等的悲剧。传述这段历史的集会举行于 7 月 25 日在广岛县安艺高田市吉田町。

**10 月 19 日 (星期二)**

为创造文化做出贡献的女性、团体颁赠的“第 25 次女性文化奖”于 18 日决定将该奖授予长野县饭田市的相泽莉依女士 (68 岁)。相泽女士的母亲千代子女士 (94 岁) 是遗华日本人，父亲是中国人。“用不是母语的日语积极传递自己的想法：不忘记中日战争的事实，绝不能再重复这样的历史，希望和平”这一点得到了高度评价。相泽女士在 62 岁时的 2015 年参加了饭田市历史研究所的“个人史讲座”。自费出版了个人史的书《幸》，并获得了“饭田历研奖”。

◆ 请注意：本栏目的新闻为见诸报端的报道摘要，并非政府正式公布的内容，其中一部分还包含媒体的观察消息。

アに抑留され、母親は逃避行中に衰弱死、弟は残留孤児となったという。「私たちは国の求めに応じて満洲に行った。戦争を反省するのならば犠牲者を弔い、その歴史を忘れないためのものが必要なはずだ」と慰霊碑建立を行政に訴えている。他にも 10 年以上前から語り部の活動を行っている。

8 月 24 日 (火)：終戦後の混乱で旧満洲に取り残された数多くの残留日本人孤児たちに手を差し伸べてきた中国人養父母の数は、5000 人以上とも言われている。残留孤児養父母連絡会の胡晓慧さんは、地元政府と協力し、かつて養父母から聞き取った話や写真などをインターネットや博物館で公開し、その姿を残そうとしている。

10 月 17 日 (日)：現在の広島県安芸高田市から国策で満洲に渡った高田开拓団は、1945 年 8 月 15 日の終戦後、集団自決や家族離散といった過酷な運命を強いられた。さらに戦後間もない満洲で、逃避行や、中国残留孤児といった悲劇を生んだ。その歴史を語り継ぐ集会在 7 月 25 日、広島県安芸高田市吉田町で開かれた。

10 月 19 日 (火)：文化の創造に貢献した女性や団体に贈る「第 25 回女性文化賞」が 18 日、長野県飯田市の相泽莉依さん (68) に決まった。中国残留日本人の母・千代子さん (94) と中国人の父の間に生まれた相泽さん。「日本と中国が戦争した事実を忘れず、二度と繰り返してはいけないと、平和を望む考えを母語でない日本語で発信した」点が評価された。相泽さんは 2015 年、62 歳で飯田市歴史研究所の「自分史ゼミ」に参加。自费出版した『幸』が「飯田歴研賞」を受賞している。

◆ 注意：本欄の内容は、一般の新聞などで報道された内容を中心に要約して掲載しています。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれています。